

ミズナ

Potherb Mustard

ミズナは京菜とも呼ばれ、シャキシャキした歯切れの良さと、煮くずれしないことが特徴です。浅漬けや鍋物のほかに、最近では生でサラダとして食べることも増えています。

栽培のポイント

① 堆肥を十分に入れましょう

畑には、元肥に良質な堆肥や油かすなどを十分に施します。有機質肥料を多めに施して、肥料切れを起こさないようにすることが、品質や味を良くするポイントです。

② アブラムシなどの害虫に注意しましょう

害虫となるのは、アブラムシ、コナガ、ヨトウムシなどです。特に、ウイルスを媒介するアブラムシは予防が肝心です。苗や畑を、防虫ネットやバスマイトなどのべたがけ資材で覆って虫の飛来を防ぐか殺虫剤を散布します。

③ 水切れに注意しましょう

秋冬栽培では、中〜大株まで育てる栽培が主流ですが、細葉の数は600〜1000枚にもなります。水を切らすと良いものが出来ないで、土が乾いたら十分に水を与えましょう。

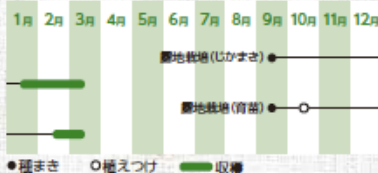
秋から冬にかけては、ミズナが栽培しやすい時期です。生でも火を通しても美味しく食べられるので豊富します。



句彩蔵上郡 店長(當農指導員)
光庵 都博



栽培カレンダー



いまだ聞けない農作業のコツ!

管理 盛夏の野菜収穫と

8月は、夏野菜の収穫最盛期です。果菜類は、光合成で作った栄養を夜の間に実に貯めます。そのため、実の糖度は早朝に一番高くなっていますが、収穫した後も野菜は呼吸を続けているので、栄養を失っていきませ。温度が高い時は、呼吸が盛んになって野菜の傷みが早いので、収穫は早朝に済ませて涼しいところで保存しましょう。

高温期に晴天が続くときは、畑にも水やりが必要です。特に、梅雨明けから8月の最盛期は、高温と水不足で生育が悪くなり、枯れることもあります。土の乾燥に弱いサトイモやシヨウガは、葉が巻いてきたら水切れの合図です。こうなる前に、畝の間に水を掛け流すなどして土の表面だけでなく、中までたっぷり浸み込むように水やりしましょう。敷きワラやマルチングも、乾燥防止に効果があります。

盛夏の水やりは、野菜の根を傷めないように早朝か夕方涼しい時間を選ぶことが重要です。忘れがちですが、水やり前にホースに残った水が水垢になっていないかにも注意しましょう。



3 追肥

- 第1回:草丈15~17cmくらいに伸びたころ、株のまわりのところどころに1株当たり化成肥料大さじ1杯をまき、土に耕しこむ。
- 第2回:葉が重なり始めたころ、畝の両側に化成肥料大さじ1杯を追肥し、通路の土をやわらげながら畝に土を寄せる。

第1回



第2回



4 害虫防除

- 有翅のアブラムシ、コナガ、ヨトウムシが大敵。苗床や畑を防虫ネットやべた掛け資材で覆うか、殺虫剤を散布する。



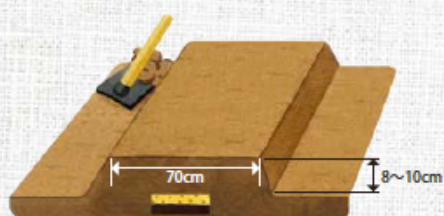
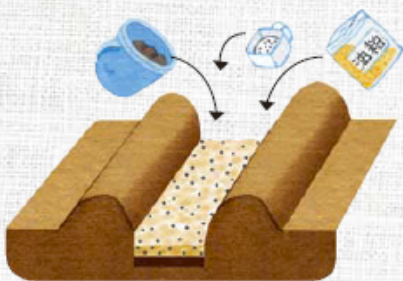
5 収穫

- 株が大きく育ったら、逐次株元から切り収穫する。



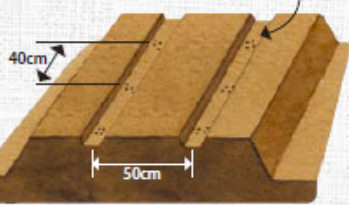
1 元肥入れ

- 溝の長さ1m当たり堆肥4~5握り、化成肥料大さじ2杯、油粕大さじ5杯を入れておく。



2 種まき

- 幅2~8cm、深さ1~1.5cmのまき溝を2列つけ、種をまく。
- 育つにつれて間引いて1本立てに。1カ所4~5粒まく



水やり

- 乾くと良品ができないので、乾いたら十分に水をやる。

